

広島原爆被害を描いた漫画「はだしのゲン」の紙芝居の英訳を、金沢市白菊町の主婦西多喜代子さん(61)が進めている。全五巻のうち第一巻と第二巻は翻訳済み。残りもほぼ終わり、八月六日の広島原爆の日までの全巻完成を目指している。(福岡範行)

# ゲン紙芝居世界へ

ゲンの紙芝居は、漫画単行本も発売する汐文社が一九九一年四月に発行。全十巻の漫画を、十六枚構成の紙芝居全五巻にまとめたもので、原爆投下の場面を中心に、主人公ゲンの兄の出征や被爆して苦しむ人の様子が収録されている。

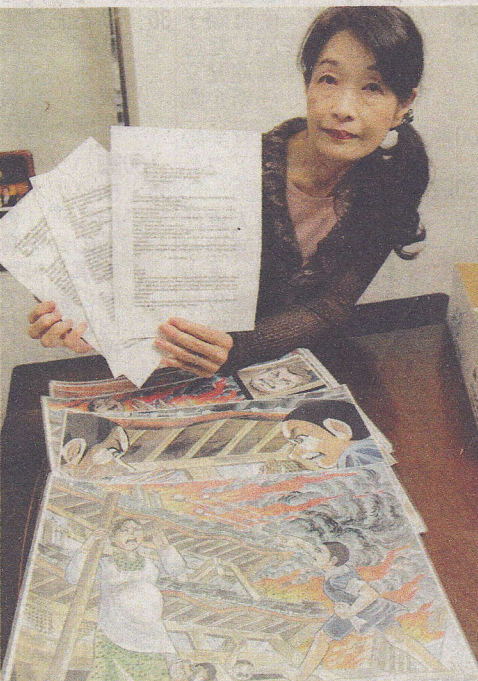
紙芝居はすでに絶版となっているが、東日本大震災後、再び注目されてきている。英訳版もそんな利用者の声から生まれた。

西多さんらに依頼したのは、青空視観の名で紙芝居上演をしている大阪市東住吉区の山口文子さん(57)。山口さんは、福島第一原発事故で

## 英語版 完成間近

「放射能の恐ろしさを伝えたことを思い出し、二〇一二年」と痛感。大阪国際平和センターにゲンの紙芝居がある。てきた。

### 金沢の西多さんら翻訳



はだしのゲンの紙芝居と英訳を披露する西多喜代子さん(金沢市白菊町で)

西多さんが所属する翻訳グループ「プロジェクト・ゲン」が漫画を英訳したことを新聞で知り、「紙芝居も世界中の人に発信したい」と頼み込んだ。

昨年五月ごろ、まずは原爆投下場面を描いた三巻が完成。山口さんはさっそく来日したインドの平和活動家らに披露したところ「ぜひ、インドの子どもにも紙芝居を見てもらいたい」と言われた。

西多さんも「ダイジェストになっているので分かりやすい。感情を込めた語りもメッセージをよく伝えてくれる」と紙芝居の効果に期待した。「原爆の悲惨さだけでなく、ゲンたちの何が起きてもめげない気持ちも、世界の人たちに伝えたい」

日本語版の紙芝居は、NPO法人「はだしのゲンをひろめる会」(金沢市)が、原作者中沢啓治さんの遺族や出版社の了解を得て電子コピーしたCDを制作。千円で販売している。